

ボッチャの試合体験

筑波学院大
公開講座 障害者競技へ理解

リオ・パラリンピックで日本代表が銀メダルを獲得した競技「ボッチャ」を体験する特別公開講座が、つくば市吾妻の筑波学院大で開かれ、参加者らが楽しみ



パラリンピック正式種目「ボッチャ」を楽しんだ参加者＝つくば市吾妻

ながら障害者スポーツへの理解を深めた。

ボッチャは欧州で生まれたスポーツで、赤や青の球を投げて白いジャックボールに近づける競技で、パラリンピックの正式種目。

この日は、「茨城ボッチャクラブ」の普及担当を行う筑波技術大の石塚和重学部長を講師に、参加者らは試合形式で球を投げて楽しんだ。体験した女性は「子どもから大人まで皆で楽しめる競技だと分かった」と話した。石塚さんは「もっと市民のスポーツとして定着させたい。『ボッチャのまち・つくば』を目指します」と意欲を示した。20日には同市春日の筑波技術大で「茨城ボッチャチャレンジ」が開かれる。

筑波学院大でも今後、公開講座「コミュニティカレッジ」のスポーツ・健康講座として同競技を楽しむ講座を予定している。

（久保浩）